



企業版ふるさと納税で 丹波山村の「山村留学」を 応援してください！

～山の中の小さな学校を必要とする子どもたち～



関東圏で最も小さい村「たばやま」

- ▶位置:山梨県の北東部、東京都と埼玉県に隣接。
村の中心を多摩川の源流「丹波川」が流れる。
- ▶人口:513人(令和5年12月1日現在)
- ▶特徴:村全域が秩父多摩甲斐国立公園内の中にあリ、
土地の面積の97%を山林が占める。
70%が東京との水源涵養林。
- ▶主要産業:観光業をはじめとするサービス業。
- ▶村にないもの:コンビニ、駅、混雑



東京都心から車で約2時間半の距離
にありながら、豊かな自然が残る「秘
境」と呼ばれる村です。
春から秋にかけては、日本百名山の雲
取山の登山や、キャンプ、ツーリングな
どを楽しむ人でにぎわいます。



「山村留学」をご存じですか？

「山村留学」とは

自然豊かな農山漁村に、小中学生が1年単位で移り住み、地元の小中学校に通いながらさまざまな体験を積む活動。「センター方式」「ホームステイ方式」「家族方式」などがある。



丹波山村の山村留学

小中学校に通う子どもとその親と一緒に村に移住する「親子留学」。平成4年に開始して以来、途切れることなく、80人以上の子どもたちを受け入れてきた。

令和5年度は、
小学校 7/14人
中学校 6/6人
が山村留学生。

人口減少が進む村にとって山村留学で来る子どもは貴重な存在。



山の中の小さな学校を選ぶ子どもたち

◎山村留学の動機

「自然豊かな環境で過ごしたい」「少人数の学校がいい」



学習面やコミュニケーションに課題を抱える子どもたちが目立つ

「特別支援学級を勧められた(在籍していた)が、少人数の学校なら手厚い指導が受けられ、普通学級でも大丈夫なのでは？」



ただし、

- ◆専門の教員・スタッフ不在
- ◆学校・家以外の居場所が少ない
- ◆山村留学親子を受け入れる住宅が不足

さまざまな事情を抱えた子どもたちを受け入れる体制が整っておらず、希望があっても叶えられない…



企業の皆様に応援していただきたいこと

丹波山村では、次の①～④に取り組めます！

- ①複式学級解消のための村単教員や、手厚い指導環境づくりのための学習支援員の採用
- ②さまざまな事情を抱える子どもや保護者のケア
- ③登校が難しい子どもたちが、家以外に日中安心して過ごせる「第三の居場所」づくり
- ④一人でも多くの子どもとその家族を受け入れるための子育て住宅の整備

寄付企業様のメリット

担当が元新聞記者なので どこよりも詳しく 企業情報を紹介	ぜひ直接見に来てください 視察・研修の 受け入れ歓迎
今年10月に始めたばかり 「ふるさと大使」 に委嘱	住宅や子どもたちの居場所に 企業様のネーム プレートを設置

最後に…

「誰ひとり取り残さない」

今年6月に行われた村長選挙で当選した木下喜人村長が公約に掲げた言葉です。

人口500人の小さなこの村を必要とするすべての人のため。

100年以上守り続けてきたこの村が、これから先も続いていけるように。

企業の皆様からのあたたかいご支援をお待ちしています。



【ご連絡先】丹波山村地方創生推進室 矢嶋澄香

TEL:0428-88-0211 E-mail:s-yajima@vill.tabayama.yamanashi.jp